

立川

8

立川と語ろう 立川に生きよう
August 2006
écoutez bien Vol.25 No.261



案内人: 守屋龍男 写真: 小林達実

山岳展望図: 藤本一美

1946m

西 小金沢山 大菩薩峠 三頭山 御前山 大岳山 雲取山 芋ノ木ノドッケ 川苔山 有間山 北西 武甲山 伊豆ヶ岳



多摩モノレール 立川-高松間より

苔むした原生林中の寂峰

[芋木ノドッケへのコース]

1. 三峰神社—4時間—白岩山—20分—分岐—30分—芋木ノドッケ
 2. 奥多摩町日原—3時間—三ツドッケ〔天目山〕—4時間—長沢山—3時間—芋木ノドッケ
 3. 奥多摩町日原—4時間—天祖山—3時間—長沢山—3時間—芋木ノドッケ
- いずれのコースも一泊が必要な難コースである。

守屋龍男 (もりや・たつお)さん

奥多摩や秩父、相模などの山を多く知る。『多摩100山』(新ハイキング社)など著書多数。01年2月号から1年間、本誌に「立川から見える山」を連載。

藤本一美 (ふじもと・かずみ)さん

山岳展望図、鳥瞰図などを描く一方、地理・歴史・民俗・山名考証など山岳を総合的に研究し、著書等多数。05年3月より「山岳情報資料室」主宰。



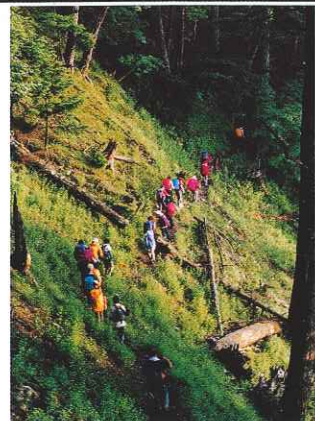
東京都と埼玉県の境にある山で、東京都では雲取山について2番目に標高の高い山である。もともとコシアブラ(近頃山菜として脚光を浴び始めたもので古名が芋木)が多く生えていたので「芋木の突起」と言われていた。立川から見ると、西の方向に雲取山と並んで大きく聳えている。

昨年の7月下旬、立川市に本拠を置く山の会・山守会の皆さんとともに山頂を踏んだ。秩父の三峰神社から縦走路を歩き、白岩山の先で芋木ノドッケ北尾根に足を踏み入れた。踏み跡がほとんどない深い原生林である。

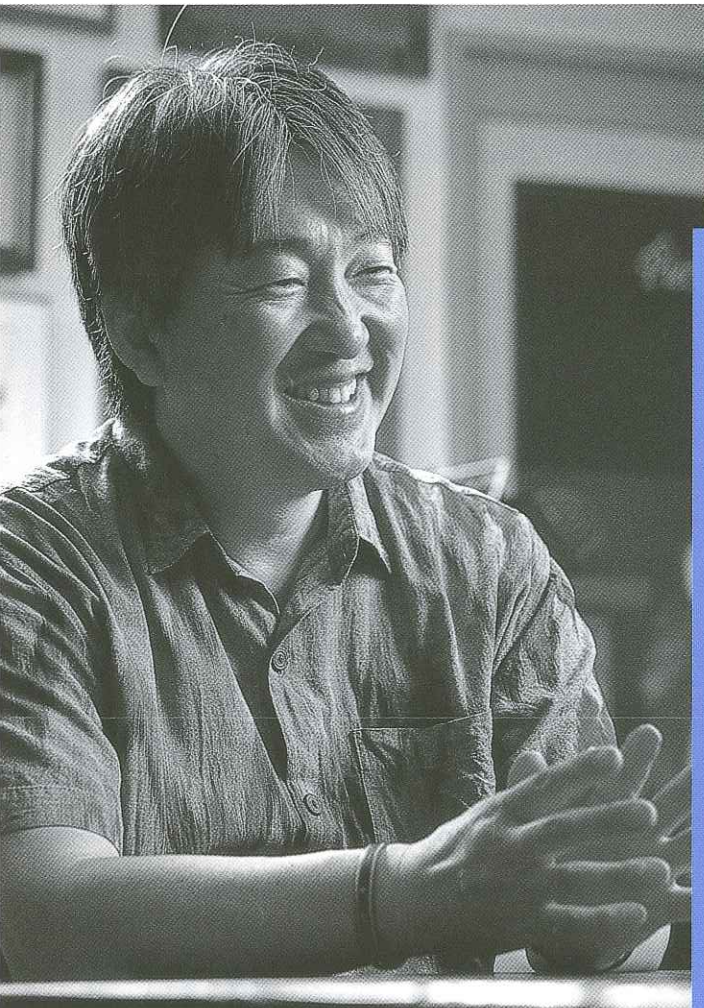
苔むした倒木の下をくぐったり、乗り越えたりしながら先に進む。サルオガセが樹木の枝にいくつもぶらさがり、時折、流れる霧にぬれている。奥秩父特有の幻想的な光景だ。ニホンジカが甲高い声で警戒音を発している。ツキノワグマの爪跡もオオシラビソの幹についている。ここはどうやら、獣たちの領分ようだ。

ほどなく山頂に着いた。ツガの木が茂って、展望が全くない。山名の由来になった芋木は1本も見当たらない。ゴーと一陣の風が樹木を揺らしながら通り過ぎる。それも一瞬で、後は深く沈んだような静寂のしじまに覆われる。

今夜の宿、雲取山荘へは西の急な崖を下り露岩の多い尾根を慎重に降りる。その先踏み跡が消えているところもあるので地形図と方位磁針で現在地を確認しながら行く。やがて雲取山縦走路と合流して大ダワの峠を越え、真っ暗になってやっと雲取山荘に着いた。



3本の木から広がるもの



クラリネット奏者 MAT音楽監督 橋爪 恵一さん

■橋爪恵一（はしづめ・けいち）／長野県生まれ。東京芸術大学卒業後オペラシアターこんにやく座、黒アクトなど劇団との共演を含め演奏家として幅広く活躍。妻のしほみえりさんと文化活動グループ、カーニバルカンパニーを主宰。立川で木管楽器3本を軸にミュージック・アート・アート・イン・タチカワ（MAT）を始める。富士見町在住。

■芳賀敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集人

於：富士見町ご自宅で 写真：玉来孝平

芳賀 今年2月から曙町の読売立川ビルで、オーボエの庄司知史さん、ファゴットの鈴木禎さんと、木管楽器3本を軸に「ミュージック・アンド・アート・イン・タチカワ（MAT）」を始められました。これまで3回のコンサートのうち2回聴かせていただきましたけど、本当に楽しい。木管楽器の響きが新鮮ですし、ライブ感覚で演奏者と聴き手の距離がとても近い。木管3本という発想は、モノレール下のサンサンロード北端近くに市民の運動で残された3本の鈴懸の木「スズカケ三兄弟」から生まれたそうですね。

橋爪 この街で音楽活動をするならトリオ・ダンシュ、つまり管楽器の中でもリードを使い木でできているオーボエ、クラリネット、ファゴットの三重奏をメイ

ンにしようと考えていました。立川に住むようになって間もなく、彫刻家の友安昭さんや銅板造形作家の赤川政由さんから、道路計画で切られそうになった3本のスズカケ（の木）を市民たちが守った話を聞きました。その時すぐに3本の木＝トリオ・ダンシュというイメージが浮かんだんです。こじつけというか、勝手な連想ですが、立川でやるならこれだと。楽器3本だと運営面も楽ですし（笑）。読売新聞立川支局からお話があって、じゃあこれをやろうと。

芳賀 そうそう。市民活動とはいえ、プロの演奏家である以上ギャランティは最低限必要になります。そのあたりが続けていく上で一番むずかしいところなんじゃないですか。

橋爪 プロの演奏家というのは、みんな自分の生活すべてを演奏に賭けているわけですね。演奏にあたってはそのために練習もしますし音楽的に深めてきますから、主催者としては最低限の保証はしたい。木管楽器3本という編成は最小限の単位で経費的にも見込みが立ちやすいんです。僕と庄司さんは立川在住、鈴木さんが武蔵村山在住。これまで立川で活動する機会がなかったので、この活動ができてとても嬉しいんです。音楽に限らず芸術とか文化って、何か特別のものである前に生活、生き方だと思うんです。僕たちのやっている木管楽器はややマイナーに見られますが、演奏者はその楽器が生き方のすべてなんです。MATでは、演奏者と客席とがとてもフレンドリーで、そういう演奏者の生き方まで見える。そこがおもしろいんじゃないかと思えますね。

芳賀 橋爪さん自身はいつごろからクラリネットを始められたの？

橋爪 高校の吹奏楽部に入ってからです。長野の田舎ですからそれまで楽器に触れる機会もありませんでした。自由というか、ちゃんとした指導の先生もいなかったんで、みんなでやりたいことをやっていた。県内ではけっこういい吹奏楽部だったんですよ。そこでクラリネットの虜になって、2年の頃には演奏家になりたいなと……。

芳賀 それで東京芸大に入ったんですから、やっぱり才能があったんですね。

橋爪 3浪してますけど（笑）。学校に5年いて26歳まで学生です。貧乏でバイトばかりしていたこともありますが、練習場所を確保するのに学生でいた方が都合がいいんです。今の若い芸大生は音楽的に恵まれた環境で育っている人が多く、楽器をコントロールする技術はかなりの出来上がっていますが、僕らの頃は高

校から始めて間に合う時代だったんですね。芸大に入って2年生くらいになると、少しずつ声がかかって演奏に使ってもらえるようになる。そうやって音楽界に入っていきわけです。

芳賀 一昨年、芸大新奏楽堂で学生時代以来25年ぶりにヨネヤマママコさんのパントマイムで再演された「月に憑かれたピエロ」はシェーンベルクでしたし、MATで演奏するレパートリーもモーツァルトから「鈴懸の径」まで。一昨年末までバイオリンの後藤龍伸さん、ピアノの山田武彦さんと3人で10年以上続けられた「カメレオンオーケストラ」にしても、橋爪さんの活動って幅広いですね。高校や芸大時代の自由さとか、音楽とクラリネットが大好きという純粋な想いをずっと持ち続けているようで、うらやましい。

橋爪 クラリネットは1800年代に作られた比較的新しい楽器で、最初からクラシックでもジャズなどのポピュラーでも使われる性格を持っているんです。僕もクラシックの奏法を基盤にしながら幅広く何でも演奏します。「カメレオン」は、最初からあらゆる音楽の素材をあらゆる形に変えていくコンセプトで生まれ、互いに刺激し合うものがたくさんありました。始めた当初はエキセントリックに思われたりしましたが、今の若い音楽家には当たり前のようにになりましたね。演奏と並んでいろいろなところで教えてもいますが、演奏家が教えることはいくらか生臭くて（笑）、教育者とは多少違うんです。教えるとしても演奏者として教えない。根底のところ、まだ学生気分そのままなんでしょうね（笑）。

芳賀 去年、今年とアフリカのザンビアまで吹奏楽を教えにも行っていらっしゃる。

橋爪 ザンビアの音楽教師を育成する学校に日本が楽器を援助したけれど奏法の指導者がいないというので、昨年国際交流基金から派遣されました。楽器があっても必要なリードがなかつ

たり、あっても高価で現地の学生は買えない。楽器が壊れても保守用の部品も修理技術もない。昨年演奏家に呼びかけて余っているリードやマウスピースを寄付してもらい持っていきましたが、1回だけでは意味がないので今年は派遣は無理でも補助金をもらって7月下旬から2週間行ってきます。音符が読めず楽器の奏法が分からなくてもリズム感や耳は抜群にいい。すばらしい音楽家が生まれる可能性は十分あります。僕もリードやマウスピースなどの寄付は続けますし、日本からの文化援助として継続してもらいたい。

芳賀 MATもそうですけど、文化活動というのは継続が一番ですからね。

橋爪 そう。去年ザンビアに行ったことがきっかけで、庄野真代さんが代表をしている「国境なき楽団」とつながりができ、今年はエイズで親を失った子どもの孤児院「カシシの家」に縦笛などの楽器を届けることになりました。僕は立川に来て3本のスズカケの木の話と同時に、本当にたくさんの方に出会うことができました。MATも毎回ゲストアーティストを迎えて音楽と一緒にアート作品でコンサートを作り上げてもらっています。次回から会場が読売立川ビルから他所へ移りますが、たくさんの方の思いから生まれた立川の文化活動として続けていきたい。続けることでもっと大きな広がりが立川から生まれてくることを期待しています。

※ザンビアへのリード、マウスピース等の寄付についてはカーニバルカンパニー（042-522-6135）までお問い合わせください。



立川市社会福祉協議会 市民活動センターたちかわ	富士見町2-36-47-2F 529-8323
桜井電材株式会社	富士見町3-2-13 523-5281
立川歴史民俗資料館	富士見町3-12-34 525-0860
室内装飾専門店 株式会社 アイアイ	富士見町4-9-8 522-5972
多摩信用金庫 富士見町支店	富士見町4-9-22 528-1741
酒 ESPOA おぎの	富士見町4-17-7 522-4500
株式会社 立川印刷所	富士見町5-6-15 524-3268
SHOP99 立川富士見町店	富士見町6-15-3 540-1799
JA経済センター 立川店	砂川町2-44-3 536-1824
JA東京みどり 立川支店	砂川町2-44-3 536-1821
陶工房 己流庵	砂川町3-41-6 537-6102
多摩信用金庫 砂川支店	砂川町4-2-3 535-4411
山梨中央銀行 立川支店	柏町1-16-1 536-0871
ペーカリー リオンドール	柏町3-3-5 535-4882
江戸蕎麦 由庵	柏町3-14-2 523-9636
ピーコック 玉川上水店	柏町4-1-2 538-3861
菅家医院	柏町4-2-15 536-4602
PLSショップ ポワッソン・ルージュ	柏町4-56-10 534-6567
うなぎ専門店 うなちゃん	柏町4-61-13 536-6240
レストラン&BAR WEST PORT	柏町4-64-3 536-4569

えくてびあんの輪
立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります

今月は 富士見町・砂川町・柏町・泉町・曙町のお店です。

ABC HOUSING	泉町935-1 540-4305
東京消防庁 立川消防署	泉町1156-1 526-0119
陸上自衛隊 立川駐屯地	緑町5番地 524-9321
うなぎ しら澤	曙町1-9-21 524-5061
有限会社 クスミ不動産	曙町1-16-2 522-4739
不動産 大晋商事	曙町1-23-9 525-3110
ヤマハエブリプラス 立川店	曙町1-27-10 523-1431
蕎麦懐石 無庵	曙町1-28-5 524-0512
TABACCONIST ゼフィルス	曙町1-28-9 524-0514
ピストロ シェ・タスケ	曙町1-28-14 527-5959
あら井鮎総本店	曙町1-30-13 522-2957
Cut Studio SOFIA	曙町1-30-21 528-3241
三田花店 ルミネ立川店	曙町2-1-1-1F 527-5587
KIRIN COFFEE ルミネ店	曙町2-1-1-1F 527-2322
オリオン書房 ルミネ立川店	曙町2-1-1-7F 527-2311
東京赤十字血液センター	曙町2-1-1-9F 527-1140
和生菓子製造直売 日の出屋 本店	曙町2-2-18 522-3308
オリオン書房 第一デパート店	曙町2-2-25-3F 523-3311
みずほ銀行 立川支店	曙町2-4-6 524-3121
お菓子の家 エミリーフロゲ 本店	曙町2-5-1-1F 527-1138

飛べ、 プール生まれの トンボたち



旧多摩川小学校「ヤゴ救出作戦」

蛙の子はオタマジャクシ、トンボの子はヤゴ。空を気持よさそうに飛翔するトンボもその前は水中で暮らす。プールに卵を産みつけられひと冬越して育ったヤゴを、水泳シーズン前に救出する活動が立川市内で行われている。子どもたちが持ち帰ったヤゴが、やがて立川の空に飛び立つ。

写真：五来孝平

死んでいた羽化寸前のギンヤンマのヤゴ



梅雨空の間から薄日が漏れる土曜日、多摩川の岸に近い旧多摩川小学校のプールに、魚すくい用の網や半分切ったペットボトルを持った子どもたちが集まった。たちかわ水辺の楽校推進協議会などが開いたヤゴ救出作戦の開始。

あらかじめ水を少なくしてもらったプールに、サンダルや運動靴で入る。去年の夏以来そのまま水を張ってあったプールの底には枯れ葉や枯れ草、小さな藻などが予想以上に多い。そこに生まれたプランクトンやアカムシなど小さな生き物を餌に、ヤゴも育つ。

網を持ち上げると、ずっしりと枯れ草や藻が入っている。その間を丹念に探すと。大小さまざまなヤゴがいる、いる。アキアカネやシオカラトンボがほとんどだが、ずば抜けて大きなギンヤンマのヤゴも交じる。

夏、プールを使う前に水を抜いて清掃をすれば全滅する運命の

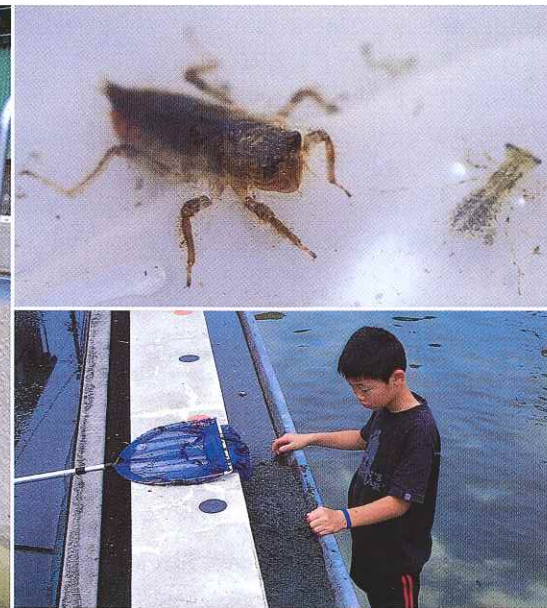
ヤゴ。その前に羽化するにしても、羽化の時の足場になる水面から突き出た草などが無いプールでは、トンボになるための肺呼吸ができず溺れて死んでしまう。この日も、羽化直前に死んだらしい最終段階のギンヤンマのヤゴ数匹が見つかった。

子どもたちが捕まえたヤゴは、水槽やペットボトルを切った容器で家に持ち帰って育てる。餌は釣具店で売っているアカムシ。中に小石や水草を入れ、羽化のために細い木の棒か割り箸を立てておく。うまく育てば、やがて瑞々しい羽を伸ばしたトンボが飛び立つ。

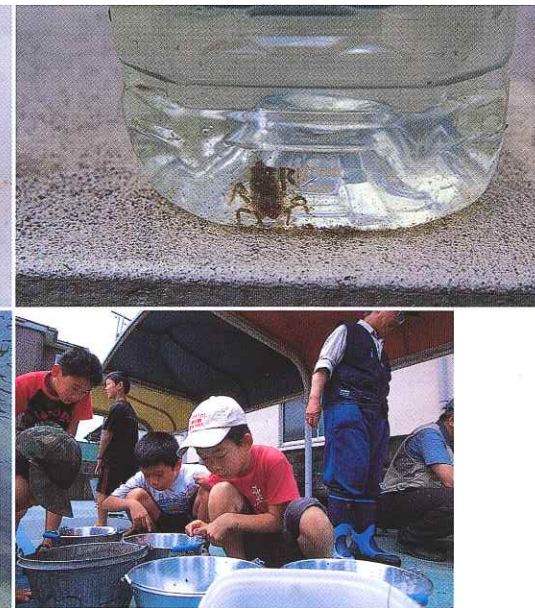
立川市内の小学校や地域のプールで、今年ヤゴ救出作戦によって助け出されたヤゴは合計約2500匹にのぼるといふ。街で飛ぶのを見かけるトンボの中にも、プール生まれで子どもたちが育てたトンボがいるにちがいない。



注意事項などの説明の後、救出作戦開始



網の中身からヤゴを探す



立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ

多摩てはこ
ネット

http://www.tamatebako-net.ne.jp/

多摩てはこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄

真如苑提供番組くじようがくじよう

スカパーフェイクTV 216ch、マイテレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送/火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて七十年

真如苑

柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

SEIBU
西武信用金庫

幸町支店

〒190-0002 立川市幸町2丁目11番地34
tel.042-537-3101 (代) fax.042-537-3648

大廣社は今、「知的集約」型企業を実践しています。



先進のシステムと最新技術との融合

株式会社
大廣社
〒190-0022 東京都立川市曙町5-17-13
tel.042-527-1911
fax.042-527-1949
E-mail info@daikousya.jp
http://www.daikousya.jp/index.html

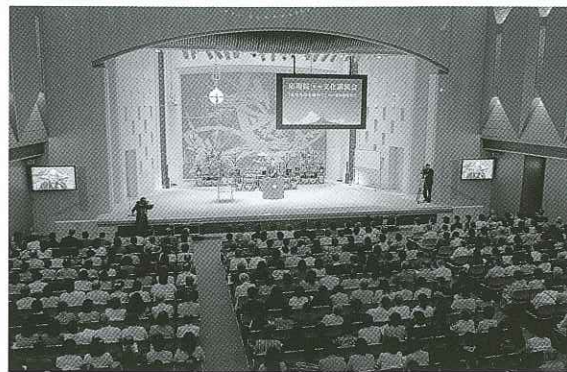
えくてびあん流

文化交流の輪を立川の地から

「応現院 第一回文化講演会」開催

多摩モノレールが立川を縦断する時に見える大きな施設。屋根には金色の塔—相輪といて、インドの仏塔(ストゥーパ)が起源の、お寺であるしるし。この春春慶した真如苑の寺院「応現院」だ。その中でも本尊を祀る本棟を会場に6月21日、第一回文化講演会が開かれた。同施設が目指す、地域住民に広く活用してもらえる文化交流の場としての初の催しで、応現院文化講演会実行委員会が主催、立川市、えくてびあん、多摩てはこネットが後援している。

第一回講師は古都奈良、法相宗大本山薬師寺の安田映胤管主。『まほろばを求めて』という講題で現代人の求める心のあり方を語られた。約1200人の聴衆を前にした講演は、会場が笑いに包まれるユーモアも随所にまじえて約2時間。講演会後には著書サイン会も行



われ、安田管主はひとりひとりに異なる言葉を書き、署名していた。

講演会終了後には本棟内の参観もあり、ふだんはなかなか入る機会のない寺院内で仏像や曼荼羅と向き合って落ち着いた時間をもつこともできた。応現院では、今後も講演会や市民講座などを開催し、広く地域住民に親んでもらう場を提供していく予定。

この人この店 37

レンタルスペース & 雑貨カフェ 夢工房

渡部伊都子さん 林 薫さん
押切史恵さん 押切千枝さん

多摩モノレール立川南駅から1分の駅チカな立地。4人いらっしゃるけれど、どなたが代表なんですか?—「4人で1人みたいな……」という奥ゆかしいスタッフの方々。専業主婦だった林さんと渡部さんがお互いの夢を語ったのがそもそもの始まり。そこにいずれはお店をもちたいと準備していた押切姉妹が加わって、みんなの夢を実現しようとできたのが「夢工房」。区切りのない棚には何人もの作家さんの手作り雑貨が。それぞれの持ち味が混ざりあって、不思議な統一感がそこにはあります。スタッフ4人のハーモニーが投影されているよう。カフェコーナーでは手作りのケーキやクッキー、こだわりの飲み物も。手芸教室などの講座も開かれて、これからはサロンコンサートもやっていきたいと、4人の夢はますます広がっていきます。毎日行かないと損! なんだかそんな気がしてきました。



〒190-0023
立川市柴崎町 2-3-3 2F
TEL 042-843-7818
営業時間 11:00～17:00
定休日なし



写真撮影: 五来孝平

たすかわ散策道 ①

古道大和田道を歩く

緑風と川風

挿絵と文 ■ 森 信保

立川市内の歴史上の話題を織り込みながら気軽にできる散策コースを選んでみた。第1回は夏の季節感を味わいながらの古道散歩。

昭和初期、立川駅南口が開設される前の府立二中(現都立立川高校)生徒の通学路は立川駅北口からJR国分寺駅方向に線路沿いに歩き旧日野道に出て現在の地下道(昔は踏切)を渡った。錦交差点から旧道に。右手に立川高校を見ながら歩くと奥多摩街道に合流し旧甲州街道に着く。この地域(下和田)は江戸時代から旧甲州街道日野の渡し場。現在の日野橋(大正15年)ができるまで渡船が続き、旅籠など商業地として栄えた。そこを右折すると下和田地蔵堂(火災で焼失)。地蔵信仰があつく最近まで念仏講が行われていたが、現在お堂はない。

段丘に沿って歩くとモノレール駅(柴崎体育館前)下へ。この周辺の河岸段丘を大和田・下和田という。和田(曲)とは輪田で、円になったところに水田のある地形。多摩川の浸食により段丘が曲がりながら続く柴崎町から錦町には上・下大和田(柴崎町)・下和田(錦町)が古名として現在も使われている。その崖線沿いは見晴らしもよく、昔から江戸・拜島方面への道として使われてきた。

この崖線地は沢とも呼ばれ、古代縄文時



沢 稲爪

代から人々が住んでいた場所。多くの土器や住居跡も見つかり、かなり大きな集落があった。崖線沿いの古道にはケヤキやエノキの大きな木が残る。江戸時代には鷹場の役所(尾鷹場)があり、今も柴崎分水が流れ旧柴崎村の元村の雰囲気も伝えている。川風を感じながら雑木林を進むと古く鎌倉道といわれた交差道路に突き当たる。そこは普濟寺旧参道の門前でもあった。

普濟寺の旧門前道を左へ。崖線を下り残堀川沿いに歩いて川上へ。JR中央線のガードを抜けると貝殻坂。約200万年前海だった頃の貝の化石(歴史民俗資料館に展示)が見つかったことにちなむ。左に残堀川を見ながら富士見町への坂道を上ると段丘の旧古道に再び戻る。ハケの左側の竹林を通り抜けると奥多摩街道の富士見町4丁目公園。この辺りは昔から滝の上と呼ばれた。西砂川(松中)で玉川上水から取り入れられた柴崎分水が現在も近くを流れている。

■ 森 信保(もり・のぶやす)さん

昭和11(1936)年長崎県生まれ。昭和35年立川市役所に入り市教育委員会で立川の歴史・民俗を調査。退職後立川市歴史民俗資料館勤務などを経て、平成15(2003)年より市内の公民館で歴史講座講師をつとめる。

- ① 都立立川高校(旧府立二中)
- ② 下和田地蔵堂跡
- ③ 花菖蒲園
- ④ 柴崎市民体育館
- ⑤ 日野の渡し碑
- ⑥ 大和田遺跡
- ⑦ 沢の稲荷
- ⑧ 普濟寺

行程 立川駅北口—旧日野道(立川高校東道)—旧甲州街道—下和田地蔵堂跡—尾鷹場鷹匠跡—根川緑道—貝殻坂—富士見町4丁目公園

表紙の人

古屋 かおりさん(柴崎町)

立日橋から新奥多摩街道を少し西に。残堀川にかかる橋の手前左手に小粋な感じのサーフショップがある。店の名は「Waioli」。そこだけ、ハワイがやってきたような店のオーナー夫人にして看板娘がこの方。サーフボードや、いかにも海に似合いそうなウェアなどに囲まれて、ちょっとエキゾチックな雰囲気もする美人は、立川生まれの立川育ち。それでも、サーフボードをかかえてもらい、多摩川べりの堤防に出ただけと、あれあれ、いつの間にか立川上空は、真っ青な常夏の島の空になってしまっているのだから。

多摩川堤防上遊歩道で

写真: 細江英公

かたこと

春先からあまりお天気に恵まれず、本欄を書いている時点でもあまり暑くない夏なのではないかという今年ですが、早くも子どもたちは夏休みです▼「えくてびあん」もこの8月号で創刊22年。本号から2つの新連載も始まりました▼「続・立川から見える山」は2001年2月号から1年間連載して好評をいただいた「立川から見える山」続編。守屋龍男さんの案内で立川から見える12座の山をご紹介します▼「たちかわ散策道」は、画家でもある森信保さんの文と挿画で、立川の歴史も訪ねながら季節ごとに楽しめる立川散策です▼少年の頃の夏休み、昆虫採集でスピードも高度もあるギンヤンマを捕まえた時は、何か誇らしい気持ちになりました▼VIEWで紹介したプールのヤゴ救出作戦で、ギンヤンマのヤゴがいたのはちょっとした驚きでした。それだけ立川の自然が豊かな証拠です▼対談をさせていただいたクラリネット奏者の橋爪恵一さんは、今年も楽器指導のためにアフリカ・ザンビアに飛び立ちます▼楽器がない、楽器の部品や技術者、音楽指導者もいない。それでも音楽への想いだけは熱いアフリカの若者たちの手助けをしたい。橋爪さん自身の想いも熱く感じました。(芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMNET design factory
写真 小林達実/五来孝平

えくてびあん (C) 8月号

第25巻 通巻261号

平成18年8月1日発行

発行 えくてびあん編集工房

〒190-0012

東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F

TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065

編集人 芳賀敏博

発行人 加賀悦也

印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

【水豆菓（みずか）】

夏の定番、みつ豆。さくらんぼ、赤えんどう、コリコリ食感の四角い寒天にフルーツ。透き通った蜜はゆるく固めてあって食べやすい。さわやかな香りとサラツとした甘み。あ、みつ豆だ……と思わずつぶやく。

（立川伊勢屋／高松町）

立川和菓子ものがたり

目に美しく食して美味 ⑦

【麩まんじゅう】

つるんとしていながらもつちりとした弾力がある。生麩はもともと日本料理の素材。その上品さを瑞々しい笹がくるんでいるおまんじゅう。中にはほんのり甘いこし餡。今日はひんやりと、錦玉のあじさいと召し上がれ。

（ゆうき／錦町）

